

# 秋の学び、各地で進む！ 明日からの実践へ意欲高まる！



24年度 第8号  
通巻1806号

発行所：  
高知県教職員組合  
〒780-0850  
高知市丸ノ内2-1-10  
TEL088-822-4135  
FAX088-823-2355

## 高教組の教研10/5

10月5日、高知工業高校を会場に、今年度第一回未来をひらく教育のつどいが開催されました。午前中の全体会(写真下)の参加者は26名。「教育DXと公教育の行方」と題し、愛知工業大学名誉教授で日本教育政策学会会長でもある中嶋哲彦さん(写真左)が講演されました。G Aスクール構想を



進める国の在り方に言及され、「未来の学校は、ライブラリにプロが時間と金を使って教材を準備している形になりつつある。先生が教材研究をしなくてもパッケージ版が用意されている状態は、余裕がない教員の多忙さを軽減するメリットになるかもしれないが、教員の資質の向上にはつながらない。生徒たちは先生の背中を見て育つ。パソコンの背中を見るものはない」と、システムの問題だけではなく、人間としての在り方にも触れられました。午後は高校と障害児教育の二つの分科会に分

## 全教職員 配布 読んでね

県教組HPは

↓こちらから



かれ、午前中に引き続き教育DXの高知県内の現状や、実践発表などで交流が行われました。高校分科会の後半では、土佐中・高校元教諭である廣井護さんが「読みのスリルとサスペンス」と題し、授業形式で講演を行いました。詩の世界を科学的に読んでいくという取り組みは、久しぶりに授業の面白さが味わえる深い学びとなりました。以下、寄せられた感想をご紹介します。

### ※全体会感想

○個人 の技能を 発展させることは必要だと思えますが、文科省などの目的が何かゆがんでいる気がします。  
○子どもたちの思いを受け止め、自身自身が価値ある人だとして子どもが実感できるようにしていきたい

### ※分科会感想

○深層よみは「科学」だなーと思いました。(高校)  
○子どもの思いによりそう、なぜその行動をするのかを日々考えながら学習に取り組めたらいいなと、余裕をもって関わろうと思いました。  
○久しぶりに盲学校での実践に触れ、子ども達の安心を広げるための好きな世界に入り込んで一緒に楽しむことの大切さなどを考えました。大人もそうです、自分が大事な存在であることを実感でき



★各地の教研の記事は次ページにも

## お城下

前号でお願いした臨教へのグループアンケート。返事が到着中▼その中の記述部分を一部紹介。

「〜年度内で雇用が途切れる場合、次の勤務校があれば任用期間中に一報いただきたい。無職では生活できないため、任用期間終了間近は別の仕事を探し、連絡をいただいた時には次の仕事が決まっている教員もいる」▼自分も、大学を出て一年間は臨教に登録。でも、一年間丸々自宅待機。いつ声がかかるかわからないとの状況では外出もままならず▼かつての交渉で県教委に「予定があるなら目処ぐらい連絡すれば、計画的に仕事を調整できるのでは？」と尋ねると、「予定していた所・時期より前に急に別な学校に着任してもらったことあるので、事前に連絡は出来ない」との回答▼任用している人には目処くらい言えるだろうに。もつと臨教を大事に！▼未回答の方、今からでもぜひご協力を。(和)

# 高知市教組は10/5

10月5日土曜日に高知城ホールで秋の子どもと教育を語るつどいを行いました。全体で10名ほどの参加でした(写真左)。

まず学級経営・授業づくりの分科会があり、3本のレポーターが出されました。低学年の書写指導について、中学年の算数(概数)の授業、



和学習などから、子どもの声を聞き、ありのままを受け入れてともに考え学ぶ大切さを学びました。宮川さんの発表資料の最後にあった「学校は子どもたちのいのちを輝かせる場であること」を心に刻みたいという言葉が印象的で心に残りまし

今年の子どもの秋の子どもと教育を語るつどいでは分科会・実践発表どちらからも子

高学年の学級通信を活用した学級づくりの3本でした。

その後、「子どもとともに生きる先生として子どもたちの尊厳と平和に生きる権利」と題して一ツ橋小学校の宮川さんに実践を発表してもらいました。生活綴り方教育やピキニ核被災から学ぶ平

# 高岡教組は10/19



どもに寄り添い、ともに学ぶ大切さが語られており、参加者

でそのことを共有することができました。(市教組 福田太介)

10月19日(土)須崎市安和小学校と集落活動センターにて、高岡教組「子育て・教育を考えるつどい」を行いました。

午前中は、ジンデ池生物研究所長の大学一年生、植村優人さん(写真右)の講演でした。トンボが大好きだった植村さん。かつてトンボを追いかけたジンデ池が廃止されると聞き調査を開始。その結果、絶滅危惧種を含む多くの生物が生息

これら活動を通して、地域の人、大学の先生、生物に興味を持つ子どもたちなど、活動の輪が広がり多くの人が活動と共にするようになりました。

昨年12月には、環境省グッドライフアワードのユース部門で環境大臣賞を受賞。さらに活動は広

講演後、「思うは招く」という言葉思い出したという司会の言葉に納得。この言葉のように一人の少年の思いが応援する人を増やし、出会いが広がっていく様子に、参加者の胸も熱くなりました。

昼休みにはジンデ池を見学し、誘い合っ



午後には分科会(写真左)を行いました。植村さんや地域の方が参加しての特設分科会「探究的な学びをすすめる教材の開発」。「おしゃべり保健室」「算数・数学」の三つで実践レポーター

# 幡多教組も10/19

10月19日(土)幡多地区教育研究大会が参加者9名で、四万十川のとおり、「棕の家」(写真次ページ)で開催されました。この施設は、元組合員で、退婦教・新婦人の会等にも長年在籍していたKさんの本家を活用したスペースで、幡多作文の会や戦中戦後の教育の資料等が多く展示された場所です。今年3月、幡多

子どもに伝えたいことを整理していきたいなと思いました。」

「楽しく分かりやすい授業をするために細やかな教材分析、教材開発をされていることを知り、とても感動しました。」

などの感想が寄せられ、こじんまりした分科会だからこその深い話ができました。

安和地区の方も参加してください、地域の方と共に学ぶ教研となりました。(高岡教組 樋口弘恵)

の栄養教諭が中心になって開催した藤原辰史さん講演会の後の懇親会の中で、藤原さんが奥出雲の出身だということから映画「砂の器」が話題となりました。若手の教職員から見た、いという声があがり、いつかハンセン病患者をめぐっての学習会をやりたいうのがこの間の懸案となっていました。そこで「砂の器」を

〈ある再任用の方からの投書〉

授業の質の向上はいらない？

短時間再任用経験のHさん

再任用小学校教科担任教員として3月まで、2年間、週4日勤務で算数・理科を20時間教えていた。知人の再任用教員は、週4日勤務で計21～22時間(理科、図工、クラブ・委員会)を担当していた。「理科は準備、片付けがあるのでなかなか大変です。来年は、1年間やりきる自信がなくなったので、3月(令和5年)で退職を決めました」と語って、1年で再任用教員を辞めた。

このような事態が生まれる背景は、週5日勤務希望の再任用教員がいないので、週4日勤務希望の再任用教員を配置したのかもしれないが、それだけではない重大な問題がある。

「高知県型小学校教科担任制要綱」(令和4年3月※以下「要項」と略記)には、小学校教科担任制の導入によって期待される効果として「①小学校における学校組織力の向上 ②義務教育9年間を見通した指導体制の構築 ③教員の働き方改革の推進」の3点が掲げられている。その元となる文部科学省の検討会議において令和3年7月にまとめられた報告では、導入の目的や趣旨として「①授業の質の向上 ②小中学校間の円滑な接続 ③多面的な児童理解 ④教師の負担軽減」の4つの観点に整理されている。

検討会議より後に作られたのに、「要綱」はそれを反映せず導入の目的や趣旨である「授業の質の向上」が欠落している。「週4日勤務で、理科・算数専科20時間以上」で専科教員が発令される理由の一つがここにある。

「要綱」に「授業の質の向上」を入れ、それに基づく人事配置を行えば、授業の準備や片付けの時間を確保でき、学級担任だけでなく、再任用専科教員の働き方改革も前進する。

ここにご紹介したのは、短時間再任用をされていた方から寄せられた投書です。空き時間がほとんどない状態で勤務されたこの方の苦労は、想像するよりも大変だったようです。「授業の質の向上」が観点にない高知県、授業準備等は少しでも良いということなのではないでしょうか。そんなことさえ思われる投書でした。再任用や臨教も含めて、持ち時数の上限設定など待遇改善をこれからも求めていかねばと思いました。



題材にした座談会が第一部として持たれました。全国国立ハルセン病療養所元患者協議会の会長として20002年の国賠訴訟の中心となって運動を牽引した曾我野一美さんが中村の出身ということから、地域の人権教育の教材として活用できないかなど、意見交流がされました。第二部では二本の平和教育のレポートが出され、その中で小林レポートが県教研に出されるのが確認されました。三部は懇親会で、夜遅くまでそれぞれが親睦を深めました。

(幡多教組 小林郁生)

11月27日(水)、全国の教職員と連帯して、定時に帰ろう!

文科省は、今、教職員定数を増やしたり残業代を支払うように改善することもなく、教職調整額を一定引き上げるとや新たな職を作ることで済ませようとしています。これは、今の多忙な現状を解決することにはつながりません。そこで、連帯して全国一斉に定時退勤をする行動をしよう

と全日本教職員組合が呼び掛けています。高知県では、これを宣伝するために26日(火)夕方に高知市で街頭宣伝を行う予定です。

みなさん、ぜひ定時退勤にご協力下さい。

教職員のための自動車保険は



全教自動車保険

教職員と家族を守って34年

WEBでかんたん見積依頼



右のQRコードから見積り依頼を→

お問合せは代理店ケンキョーまで ☎ 0120-459-813

ゆきとどいた教育署名にぜひご協力を!

教員採用審査第1回の発表で名簿登載された小学校教諭280名の内、7割にあたる204名が辞退したことが報じられています。先生を目指そうという人にとって、他県と比べて高知県は魅力がないことの証明です。高知県独自の定数改善や少人数学級の促進、持ち時数の上限設定、未配置解消等を求めるために、教育予算の増額等を求める「ゆきとどいた教育署名」を今、取り組み中。12月初旬、県議会初日に請願として提出予定です。1筆でも多く積み上げることで、私たちの強い意思を示しましょう。ぜひご協力下さい。(緑色の署名です。県教組HPにも公開中です。)

### 高知県内を流れる1・2級河川⑧

1	2	3	4
5			
6	7	8	
9		10	
11			12
13			

#### 【タテのカギ】

- 長さ13.5m。日本で一番短い川。和歌山県那智勝浦町を流れています。
- 不屈の精神が現れている顔
- くっつきワード
- お〇〇、あ〇〇いろ、〇〇んど
- 家康の墓がある
- 静岡県〇〇〇山

#### 【横のカギ】

- 理科の4分野。生物・地学と。
- 顔の言い換え。「どの〇〇下げて」
- 海水魚。高知ではイガミやエガミ
- 愛媛県の昔の名
- 仕事が多くて忙しいこと
- 雲と霞
- 鍵、英語なら
- 理科の4分野。
- 顔の言い換え。「どの〇〇下げて」
- 海水魚。高知ではイガミやエガミ

と呼ばれることも  
 8. 降水量が多いこと。  
 9. 主に、食事の後の歯間の掃除に使います。  
 11. 祝賀行事の際の祝いの言葉  
 13. 赤葡萄酒のような濃い赤色  
 かぎを解いて二重枠に入る2文字で、高知県内を流れる1・2級河川の名前(〇〇川、解答には川をつけてね)を作ってください。

#### 【みなさんの声より】

ひなママさん (香我美中)  
 (江陽小)  
 ○今育休中のため、久しぶりに職場に行くと、プールがなくなっていてびっくりしました。  
 ○暑さ寒さも彼岸まで、とはいうものの、今年はいつもと違う！特別教室にはエアコ

#### 【お友達の選書】

「こくぶ川(国分川)」でした。抽選の結果、次の3名が当選されました。おめでとうございます。  
 かぼちゃんさん (伊野商)  
 闘争心さん



作者・なっちゃん、高3生。受験真っ只中。ガンバ!

は葉書で送って下さい。締切は1月31日(金)。3名の方に図書カードを進呈。○は紙上で紹介させていただきます。⑤は紙上で紹介させていただきます。  
 ○今年夏野菜、さつまいも、収穫が悪かったです。大根は頑張るぞ！  
 ○定年退職まで後2年ですが、来年から給料減額、体力的にみんなどと同じように働けるか、給料減って生活はどうなるか不安だらけ！  
 ○10月の体育祭に向けて夏休み前からヒップホップのダンス講師にたびたび来ていただき、ダンスの練習にいそしんでいる生徒たち。あまりの暑さに、何で冷房のついた部屋で練習できないの？と訴える声。熱中症対策で開催日は10月に移動させても、練習はやはり真夏および残暑極厳の時期。うちの体育館にも早く冷房がついてほしいなあ。

○運動会の練習を頑張っています。ただ暑い。朝一番の涼しいうちにのぼる。朝から暑くて...これから地球は、どうなっているのでしょうか。  
 ○学校の池で亀、コイ、フナ、金魚を飼育中。私が餌やりをしていたのですが、最近亀ちゃんのかわいさに気づいたのか、子どもたちがやりたかと言つて、ピンセットで一粒ずつ時間をかけてやっています。とても微笑ましい光景です。でも鯉はもつとパクパク食べたいろ〜な！  
 ○給料が少ない！物価が上がっているのに給料の上がり具合が伴っていない。これじゃあやる気が起きるわけない！大幅賃上げを！  
 ○郵便料金値上げ前の最後の63円ハガキ。職場でワイワイいながら解いています。時には生徒がタブレットで調べてくれたり、(ビリーバンバンを知らない人が)「ブリンバンバン、ブリンバンバン」と踊る人がいたり。職場の人たちはスマホを使ってメールで送っているようです。使う人が少なくなつて、郵便料金値上げかな？

○運動場では陸上記録会の練習、音楽室では音楽祭に向けての合唱練習、体育館では学習発表会の練習、教室ではこども県展の作品づくりと月目標の読書に勤しみ。スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋、真つ只中の本校です。  
 ○わが校のあるホームではカメを飼育しています。生き物を大切に見守る心、きつと親になつても温かく子どもを見守ることでしょう。  
 ○高知県の小学校教諭なり手不足、名簿登載者の7割辞退は、ブラックな労働環境と低賃金を改善しなければ解決しないのではないかな。

メールはこちら